

図書館がすすめる 夏休みの本（5・6年向き）

『ムンジャクンジュは毛虫じゃない』

岡田淳／作・絵

偕成社（913 オ・ム）

たたりを恐れて、町の人はだれも登らないクロヤマから、引越してきたばかりの良枝は、黒くてふわふわのふしぎな生き物を連れてきてしまいました。克彦と稔は、一緒にその生き物を育てることにしますが、困ったことになっていきます…。



『珍獣ドクターのドタバタ診察日記』

田向健一／著 ポプラ社

（649 子）

田向先生の動物病院には、毎日いろいろな動物たちがやってきます。中には、はじめて見るめずらしい動物もありますが、先生は一生懸命、方法を考えて治療します。動物病院の仕事や、生き物の命との向き合い方を教えてくれる本です。



『よみち3人修学旅行』

市川朔久子／著

講談社（913 イ・ヨ）

事情があって修学旅行に行けなかった、天馬、柊、風知の3人は、卒業式後の春休みに、ちょっと変わった旅行に行くこととなります。その旅行には、途中でなくてはいけない課題があるのです…。



『青いイルカの島』

スコット・オデル／作

藤原英司／訳

理論社（933 オ・ア）

アメリカの小さな島に一人で残されてしまった少女のお話です。少女は島のきびしい自然や孤独の中で、いろいろな工夫をしながら、18年間、一人で生きぬきました。本当にあったできごとをもとにして作られた本です。



『風はどこで生まれるの？』

なかのひろみ／著 アリス館

（451 カ）

風っていったいなんだろう？ 風について、資料を集めたり、実験したり、気象庁に行ってみたりして、調べたことが書いてある本。読むと、風が地球の生き物にとって、とても大切なものだということがわかるよ。



『ケンガイにっ！』

高森美由紀／作 フレーベル館

（913 タ・ケ）

スマホのゲームにはまった生活をしてきた俊は、夏休みの間、おばあちゃんの家で暮らすこととなります。でも、そこは、スマホがつかないほどの田舎でした。逃げ出したかった俊ですが、毎日、おばあちゃんの手料理を食べて、そこで過ごしているうちに気持ちが変わっていきます。



『となりの火星人』

工藤純子／著 講談社

（913 ク・ト）

他人とのコミュニケーションが苦手なかえで、時々、キレて暴れてしまう和樹、パニックになってしまう美咲…。困った部分を持っている子たちが、自分の個性を受け入れて生きることに気づいていく物語。



『ルリユールおじさん』

いせひでこ／作 理論社

（Eイ・ル）

ソフィーが大切にしていた植物図鑑がこわれてしまいました。ソフィーは、その本をなおしたくて、町の人にきいた「ルリユール」の工房をたずねます。すると、そこにいたおじさんは、本をばらばらにしはじめて…。



『モモ』

ミヒャエル・エンデ／作

大島かおり／訳

岩波書店（943 エ・モ）

昔の円形劇場の廃墟にモモという名前の小さな女の子が住みつきましました。町の人たちは、モモのことが大好きになり、仲良くなりました。でも、ある日、町に人の時間を盗む灰色の男たちがやってきて、町の人たちはすっかり変わってしまいます…。



『なぜこうなった？ あの絶景のひみつ』

増田明代／文・構成

山口耕生／監修

講談社（450 ナ）

世界中の美しくてふしぎな風景の写真と、その絶景がどうやってできたのかを教えてくれる本。おどろきの自然のしくみがわかるよ！

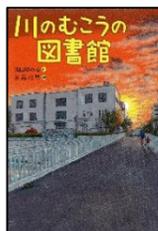


『川のむこうの図書館』

池田ゆみる／作 さ・え・ら書房

（913 イ・カ）

図書館にいやな思い出がある竜司。でも、卒業前の自由研究のために、同じ班の子たちと図書館に通うこととなります。そして、調べ物を続けているうちに、竜司の心は変わっていきます。

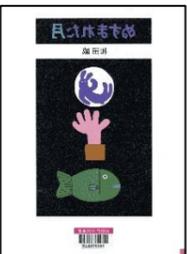


『めすまれた月』

和田誠／作・絵 岩崎書店

（Eワ・又）

「月が大好きな男が、長い長いはしごを作って、月を持って帰った」というお話をとおして、月食や月の満ち欠けなど、月のことをいろいろ教えてくれる絵本です。

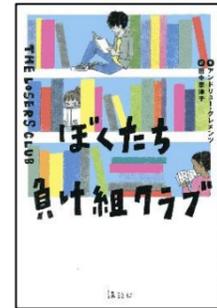


『ぼくたち負け組クラブ』

アンドリュー・クレメンツ／著

講談社（933 ク・ボ）

本が大好きなアレックは、誰にも邪魔されずに本を読むために、読書クラブを作ります。名前は、みんなが入らないように「負け組クラブ」という変な名前にしました。でも、次々にメンバーが増えてしまっ…。



『しょうゆの絵本』

たちひろし／へん たかべせいいち／え

農山漁村文化協会（588 シ）

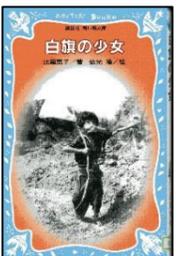
日本の食事に欠かせない「しょうゆ」。ただ塩辛いただけじゃなくて、深みのある味がするよね。何から、どうやって作るのかな？



『白旗の少女』

比嘉富子／著 講談社（916 シ）

太平洋戦争の時に戦場になった沖縄で、兄弟とはぐれてしまった7歳の富子は、一人で戦場をさまよいました。でも、偶然出会ったおじさんとおばあさんのおかげで、生きぬくことができました。



『あした飛ぶ』

東田澄江／作 学研プラス

（913 ツ・ア）

事情があって、大分県に引っ越してきた星乃は、クラスになじめずいました。ある日、星乃は、「アサギマダラ」という、日本列島を旅するチョウを捕獲します。でも、そのチョウの羽には、先に長野県で捕獲した印が書いてありました。星乃はその印が気に入り、それを書いた人を探し始めます。



『大きな森の小さな家』

ロー・イガム・ワイルダ - / 作 恩地三保子 / 訳

福音館書店（933 ワ・オ）

今から100年以上前の開拓時代のアメリカで暮らす家族の物語です。きびしい自然の中の生活ですが、楽しいこともたくさんあります。

